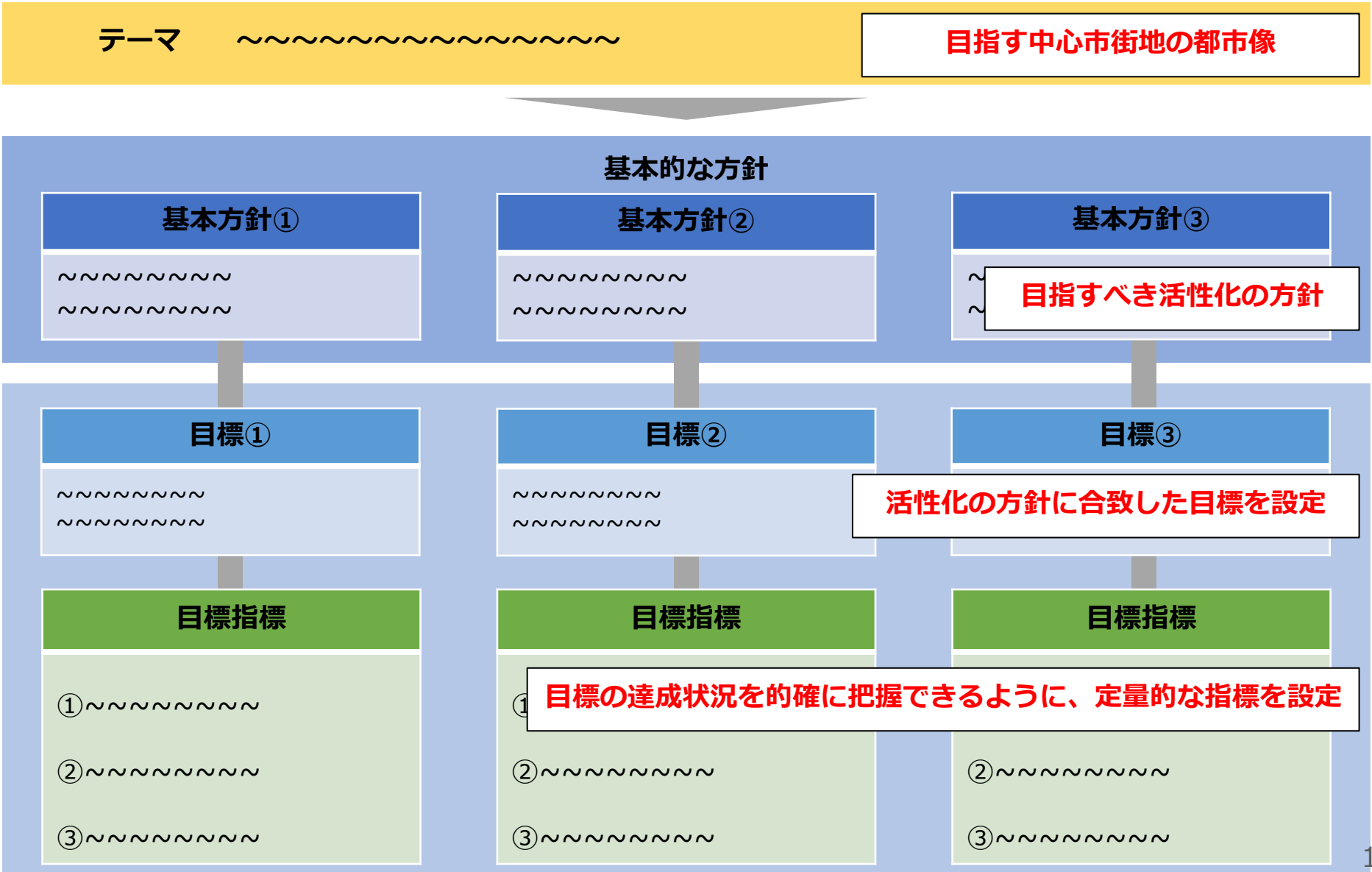
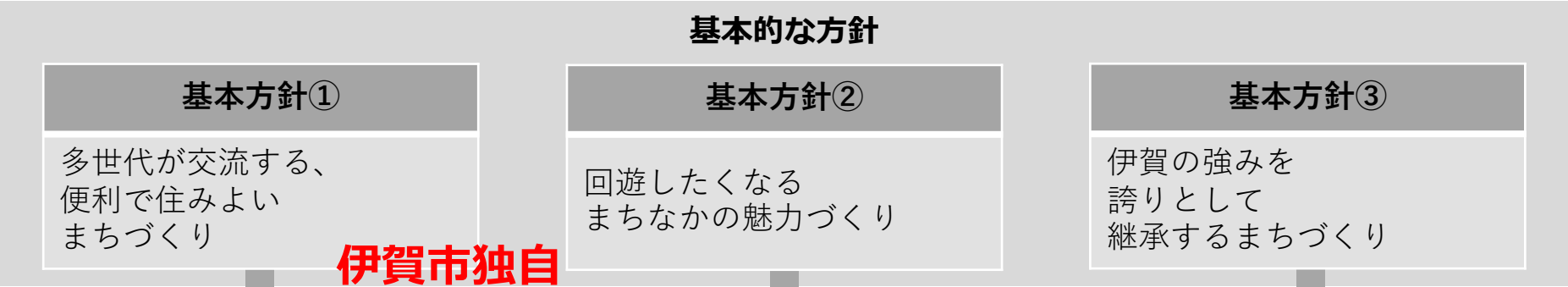


目標の体系（内閣府地方創生推進事務局「認定申請マニュアル」より）

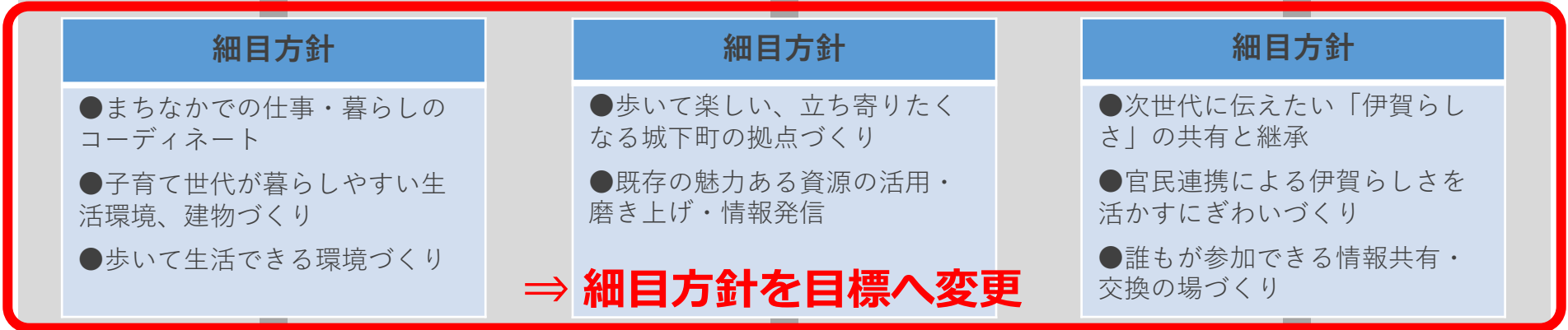


第3期伊賀市中心市街地活性化基本計画

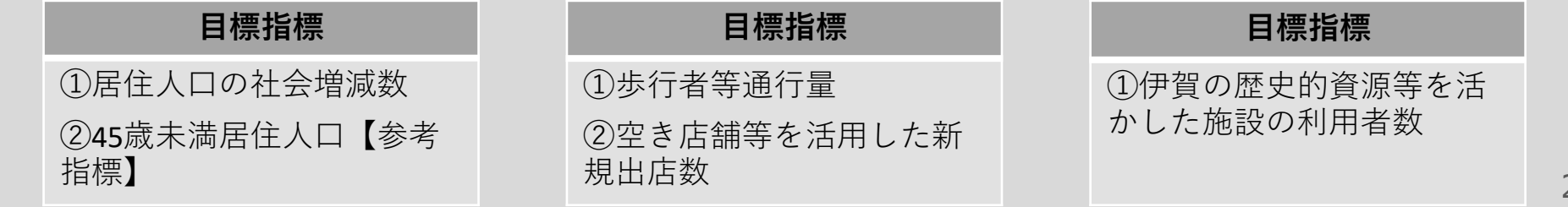
テーマ 城下町伊賀上野の文化・風土を官民で守り、次世代につなげ、
新たなにぎわいを創出する。



伊賀市独自

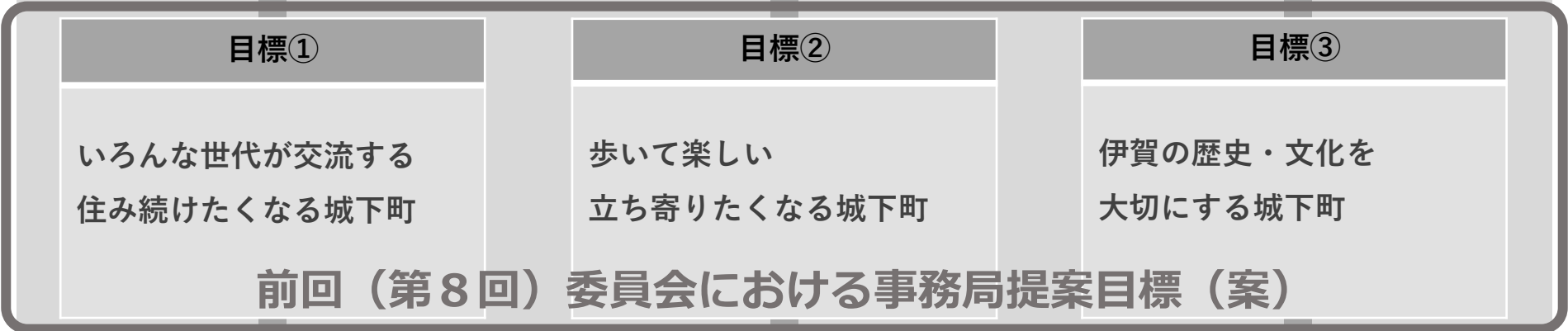
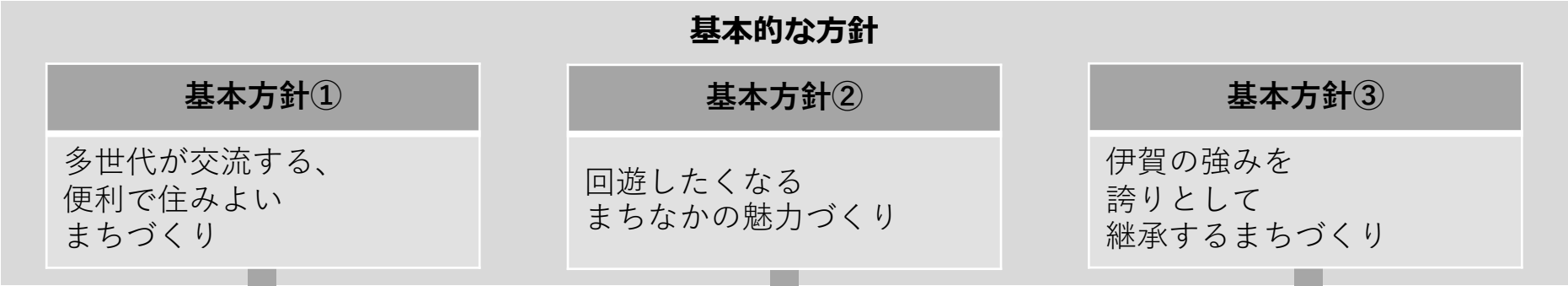


⇒ **細目方針を目標へ変更**



第3期伊賀市中心市街地活性化基本計画

テーマ 城下町伊賀上野の文化・風土を官民で守り、次世代につなげ、
新たなにぎわいを創出する。



目標指標

①居住人口の社会増減数
②45歳未満居住人口【参考指標】

目標指標

①歩行者等通行量
②空き店舗等を活用した新規出店数

目標指標

①伊賀の歴史的資源等を活かした施設の利用者数

前回（第8回）委員会での委員からのご意見

- 目標とは到達地点であり、少なくとも到達地点がどのような姿なのか書き切れていないといけない。
- そういう意味では、細目方針をもう少しコンパクトな文章にした方が目標になる。
- 何をもって、どこまで引き上げていくかということが目標に書かれるべきである。
- もう少し抽象度高く記載していただきたい。具体的な取り組みが見えなくなってしまうため、
どういう形に到達するのかという部分がはっきり示される目標であるべきだと考える。
- 例えば、基本方針①であれば、「子育て世代が暮らしやすいまちづくりをすること」→「その生活がより便利になるようなまちなかの活性化をすること」→「さらにそれがコンパクトなまちづくりとして実現すること」のようなことをもっと凝縮した言葉で記載すると、目標に相当する言葉遣いになると考える。
- 様々な主体が頑張っているが、その繋がりがまだまだ弱いと思うため、このあたりを目標に記載してほしい。資源もイベントもある中で、それらを繋いでさらに強化していくことを目標に記載していくと、より分かりやすくなると思う。
- 例えば基本方針②の「回遊したくなる」というのは、資源をうまく情報提供し、来訪者が他の施設に行く、あるいは回遊するといった仕掛けをどうやって作っていくかということであるため、様々なものを繋ぐ機能をより充実していくことだと考える。そこを目標に記載していただきたい。

目標の設定について

第3期伊賀市中心市街地活性化基本計画

テーマ

城下町伊賀上野の文化・風土を官民で守り、次世代につなげ、
新たなにぎわいを創出する。

基本的な方針

基本方針①

多世代が交流する、
便利で住みよい
まちづくり

基本方針②

回遊したくなる
まちなかの魅力づくり

基本方針③

伊賀の強みを
誇りとして
継承するまちづくり

目標①

仕事と暮らしが調和した
多世代が暮らしやすい
生活環境の整った城下町

目標②

地域資源がつながる
歩いて楽しい
立ち寄りたくなる城下町
新規提案目標（案）

目標③

歴史文化が育んだ
「伊賀らしさ」を
次世代に継承し、
持続可能な魅力あふれる
城下町

目標指標

①居住人口の社会増減数
②45歳未満居住人口【参考
指標】

目標指標

①歩行者等通行量
②空き店舗等を活用した新
規出店数

目標指標

①伊賀の歴史的資源等を活
かした施設の利用者数

基本方針 1

多世代が交流する、便利で住みよいまちづくり

目標①－ 1 仕事と暮らしが調和した

商業地域と居住地域が調和し、多くの人が暮らし、地域内で働ける場がある城下町を目指します。

【 背景・課題 】

- ・ まちなかの人口減少が著しい
- ・ 空き店舗が増加している
 - 店舗と住居が分離していない、改修費が高額、貸し渋り

目標①－ 2 多世代が暮らしやすい

都市機能や生活機能が集積した、

子育て世代も高齢者世代も快適な暮らしができる城下町を目指します。

【 背景・課題 】

- ・ まちなかの人口減少が著しく、高齢化率も高い
- ・ 若者世代のUターン志向が低い、中心市街地から出ると戻ってこない
- ・ 空き店舗が増加し、生活機能が低下している

基本方針 1

多世代が交流する、便利で住みよいまちづくり

目標①－ 3 生活環境の整った城下町

歩いて生活できる、生活環境の整った、市の経済活動の基盤となる城下町を目指します。

【 背景・課題 】

- ・ まちなかの人口減少が著しい
- ・ 空き店舗が増加し、生活機能が低下している
- ・ 小売商業の郊外化・大型化が進み、中心市街地の利便性の低下や商業活動の縮小が進んでいる。
- ・ 公共交通の利便性が低下している。

基本方針 2

回遊したくなるまちなかの魅力づくり

目標②－1 地域資源がつながる

まちの資源がつながることで、歴史的資源・観光資源の情報を広く発信できる城下町を目指します。

【背景・課題】

- ・まちなかには多くの資源があるが、情報発信が不十分
- ・官－民、民－民の繋がりが弱い
- ・資源が点在している、導線が定まっていない

目標②－2 歩いて楽しい

美しい城下町の景観が保たれた魅力的なまちなみが広がり、
伊賀の歴史的資源を活用したメニューが豊富にある、
歩いて楽しい城下町を目指します。

【背景・課題】

- ・空き店舗が多く、活気がない
- ・観光客がぶらっと立ち寄れる拠点が少ない

目標②－3 立ち寄りたくなる城下町

**城下町のまちなみが残る伊賀の歴史・文化を活かした施設を訪れるように、
ぶらっと立ち寄り、宿泊したくなる城下町を目指します。**

【背景・課題】

- ・ 空き店舗が多く、活気がない
- ・ 観光客がぶらっと立ち寄れる拠点が少ない
- ・ 城下町の景観が崩れつつある
- ・ 歴史・文化の発信が十分でない

基本方針 3

伊賀の強みを誇りとして継承するまちづくり

目標③－ 1 歴史文化が育んだ「伊賀らしさ」を次世代に継承し、

子ども時代からまちなかに足を運び、愛着を持つことで、
伝統文化を受け継ぐ次世代が育成される城下町を目指します。

【 背景・課題 】

- ・ 少子高齢化により、伝統文化の継承が困難になっている
- ・ まちの魅力の低下により、周辺部の若者世代がまちなかへ足を向けなくなっている

目標③－ 2 持続可能な魅力あふれる城下町

市民全員がまちの良さを実感し、まちなかから周辺部へ活性化の効果が波及することで、
伊賀市の持続可能性を高める基盤となる城下町＝中心市街地を目指します。

【 背景・課題 】

- ・ まちの魅力の低下により、周辺部の若者世代がまちなかへ足を向けなくなっている
- ・ 周辺部との連携不足により、波及効果が現れない可能性がある
- ・ 中心市街地活性化の必要性が認識されていない
 - 中心市街地活性化は市の発展に寄与する
 - 中心市街地外の人のもとより、中心市街地内の人も認識できていない